

平成 29 年度第 全国学力・学習状況調査における

本校の結果分析と今後の学習指導の取組について

新宿区立淀橋第四小学校

1 全国学力・学習状況調査について

全国の小学 6 年生と中学 3 年生を対象として、学力・学習状況調査が行われました。その結果を受けて、本校児童の結果のまとめと今後の取組についてお知らせします。

2 結果の分析と今後の取組（○成果、△課題、→考察や改善のための本校の取組）

実施教科	A 問題 (主として知識に関する問題)	B 問題 (主として活用に関する問題)
国語	○東京都及び全国の平均正答率と比べて、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの領域における値が上回っている。 △「書くこと」に関する問題の正答率が、都及び全国を上回っている。一方で、漢字（読み書きとも）の定着に課題がみられた（特に無解答率が高い）。 →手紙や作文指導を定期的に行い、構成や書き方のきまりについて、着実に定着することができるようにする。同時に、既習の漢字は国語以外の教科でも折に触れ使うようにしていく。	○目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える問題は正答率が高い。併せて、話す・聞くことの力の定着が見られる。 →授業だけではなく委員会活動など学校生活の中での経験の積み重ねがあると考えられる。 △「読むこと」について、他人の意見を参考に適切な意見を選択する問題では、正答率が二割を下回った。 →まず、(友達等の) 考えをしっかりと聞くことで話の内容を理解できるよう、聞き方の確認をする。
算数	○全ての区分(単元・項目)において、正答率が 80% を超えた。一定の知識・技能の定着がみられた。 △整数と小数の混合四則演算に関する正答率が他の問題よりも低い。 →四則計算の法則を再確認する必要がある。毎授業のはじめに取り組ませることで、正しく計算することができるようにする。	○正答率の分布をみると、平均値より大きく下回る児童が少数いるものの、全体のばらつきは大きくなく、一定の範囲以上にある。 →習熟度別指導のメリットを活かし、児童のレディネスに応じた指導を継続していく。 △図形を扱う問題の正答率が目立って低い。 →学習したことが少しでも身近な生活と結び付けられるようにする。授業時間でも既習事項を活用できる場面を意識させる。 △考え方を記述で解答する問題において、無解答率の高さが目立つ。 →ノート指導の中で、よいノートを紹介して共有することで書き方のイメージをもたせる。

生活習慣や学校環境に関する質問紙調査	○自分の考えを発表したり友達の意見を聞いたりすることに肯定的な児童が多い。 →授業中や特別活動の面において、自信をつけられるような経験が積み重なっていると考えられる。 ○自己のとらえ方や将来について、能動的に学習に取り組む姿勢について、学習や生活上の友達との関わりについて、家族や地域の方との関わり方について等の質問で、肯定的な回答が多くみられた。 →引き続き、家庭や地域との連携を図りながら、バランスよく児童の知徳体の力を高める指導に努める。 ○「土曜日の午前は、何をして過ごすことが多いですか」の質問に対して、「地域の活動に参加している」と回答した児童が、全国及び都の平均を大きく上回っている。 →新宿区の推進する地域協働学校の活動の充実ぶりを示していると思われる。 △「問題を解くのに要した時間について」の質問に対して、東京都の平均と比較すると、時間が十分ではないと感じている児童がやや多い。 →授業の中で、時間をかけてじっくり考える場面、素早く適切な方法で処理する場面等、児童の学習のバリエーションを増やすことができるような指導を行う。 △起床時刻はほぼ安定しているが、就寝時刻について意識している児童が少ない。 →学習への集中力や健康面への影響を考慮し、学校と家庭で連携していけるようにする。
--------------------	---

4 今後の学習や生活における結果の活用について

今回、国語科の言語の分野においてやや課題がみられる結果となりました。教科学習においても、結果を踏まえた授業改善に努めます。同時に、言語環境をより良いものにしていく必要があります。現状として、児童同士の関わりにおいては、むしろコミュニケーションを阻害してしまうような言葉の選択もみられます。子ども達は、大人の振る舞いを見ることで学ぶ力をもっています。学校、地域、家庭が一体となってよりよい言語環境を構築することで、子ども達によりよいコミュニケーションの力を身に付けさせることができると考えます。

今回の学力調査の結果を基にした学校の指導改善にご理解をいただくとともに、引き続きのご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。